

広島・神戸 視察結果

平成28年9月27日
大川小学校旧校舎に関する
震災遺構検討会議(第2回)資料

視察概要

- 日程：平成28年9月10日（土）、11日（日）
- 参加者：
震災遺構検討会議（旧門脇小学校校舎）
メンバー14名、石巻市4名、コンサル3名 計21名
- 視察先：
広島県広島市（平和記念公園等）
兵庫県神戸市（人と防災未来センター等）

視察行程

【1日目】

午前：移動(⇒広島)

午後：被爆体験講話

資料館・公園・被爆建造物見学

[広島市内泊]

【2日目】

午前：移動(⇒神戸)公園・震災遺構見学

午後：語り部講話、展示・資料室見学

[移動(⇒石巻)]

広島原爆による被害

- 原爆投下日時：1945年8月6日 8時15分
- 原子爆弾は投下43秒後、地上約600メートル上空で閃光を放って炸裂、中心温度が摂氏100万 $^{\circ}\text{C}$ を超える最大直径280メートルの火球を形成、爆心地周辺の地表面は3,000～4,000 $^{\circ}\text{C}$ に達した
- 爆風、熱線、放射線による複合的な被害
- 原爆によって亡くなった人の数は正確には不明だが、1945年12月末までに推定約14万人(±1万人)

当日同行いただいた

原田浩氏(元広島平和記念資料館館長)

- 第9代広島平和記念資料館館長(1993～97年)
- その後、国際・平和担当理事(資料館館長兼務)、広島市文化財団理事長、現代美術館館長など歴任
- 6歳の時、広島駅で原爆被爆の体験を持つ(被爆を体験した最後の広島平和記念資料館館長)



広島平和記念資料館

- 原爆の惨状を後世に伝えるための施設として1955年に開館
- 公益財団法人広島平和文化センターが広島市から指定を受け管理・運営
- 本館は国指定の重要文化財
- 2015年度の来館者数は約149.5万人
(※参考)広島市の人口:約119.3万人
- パネル、模型、現物、写真、映像等資料が展示されている
- 現在、東館は改修工事中



広島平和記念資料館

【被爆体験講話】

原田浩氏

- 被爆71年目の建造物保存の状況、制度構築の経緯
- ※広島市議会は被爆21年目に原爆ドーム保存決定
- 被爆の実相と自身の被爆体験
- オバマ米大統領の訪問
- 被爆当日の写真はほぼなし
⇒絵で残す取組み
- 遺構(ハード)とソフトを兼ねた伝承のための準備



- 現物(遺構)の保存
- 体験者がいなくなった後、若い人へ
- ※会場は平和学習用の部屋
(視察当日は5回転利用)

広島平和記念公園

- 1954年、世界の恒久平和を願い爆心地に近い中島町に完成した市民公園
- 丹下健三らの設計で、面積は約122,100平方メートル
- 平和記念資料館、慰霊碑、原爆ドームを一本の線(軸線)上に配置
- 原爆が投下された8月6日には毎年、平和記念式典が開催されている



国立原爆死没者追悼平和祈念館

- 原爆死没者追悼、伝承、平和な世界の構築を目的として、2002年に厚生労働省が設置した施設
- 2015年度の来館者は約31.4万人
- 入館後、反時計回りの階段を下り、地下2階の追悼空間へ
- 死没者個人の遺影と名前の検索コーナー
- 証言映像や体験記を閲覧できるコーナー
- 2016年3月末時点で18,265人分の遺影を収集



広島市内の被爆建造物

平和記念公園周辺及びその周辺には57以上の慰霊碑や記念碑が存在する。

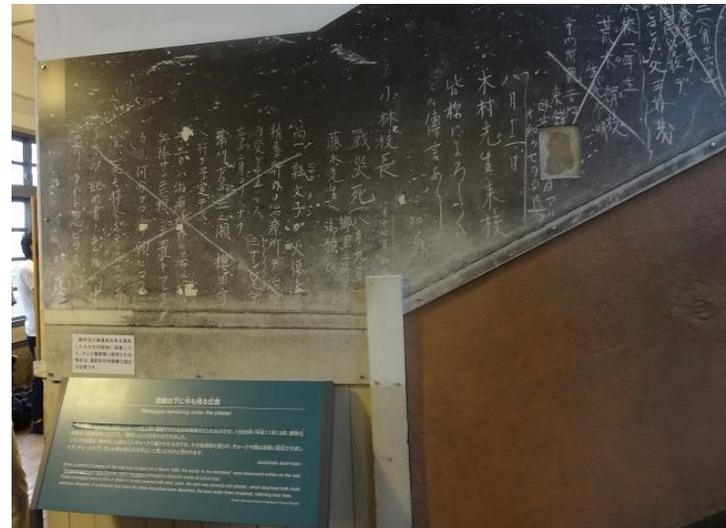
【今回見学した被爆建造物等】

- 爆心地直下
- 袋町小学校
- アンデルセン
- 旧日本銀行広島支店
- 被爆柳
- 旧陸軍被服支廠
- 日本赤十字・原爆病院

広島市内の被爆建造物

袋町小学校

- 爆心地から460m離れた校舎は外郭のみ残し廃墟に
- 原爆投下の数日後には被爆者の避難場所・救護所になるとともに、児童・教職員・住民等の安否を尋ねる場となった
- 2002年の袋町小新築の際、被爆した「西校舎」の一部に「広島市立袋町小学校平和資料館」が整備された
- 案内者はシルバー人材センターからの派遣



広島市内の被爆建造物

爆心地直下

- 「島病院」上空580mで原爆が炸裂し、関係者・患者が犠牲になり、建物も被爆
- 歩道に案内板の設置



旧日本銀行広島支店

- 鉄筋コンクリート造3階建／地下1階の洋風建築
- 地下の一室で広島平和記念資料館が「収蔵資料展」を開催



広島市内の被爆建造物

旧陸軍被服支廠

- 94m長の赤レンガの建物4棟からなる巨大な軍用施設
- 被爆時の爆風による鉄扉変形の痕跡
- 保存方法は未定



被爆柳

- 広島市内には、被爆建造物だけでなく、被爆した樹木も多数残存
- (車中から見学)被爆柳



広島市内の被爆建造物

日本赤十字・原爆病院

- 原爆の爆風により建物は大破したが、救護活動拠点となった病院
- 1993年に解体、窓枠とガラスの食い込んだ壁面のみをモニュメントとして移設・保存
- 「広島市被爆建物等保存・継承事業実施要綱」が適用された初めての構造物
- 原田元館長にとっては「妥協の産物」との思い



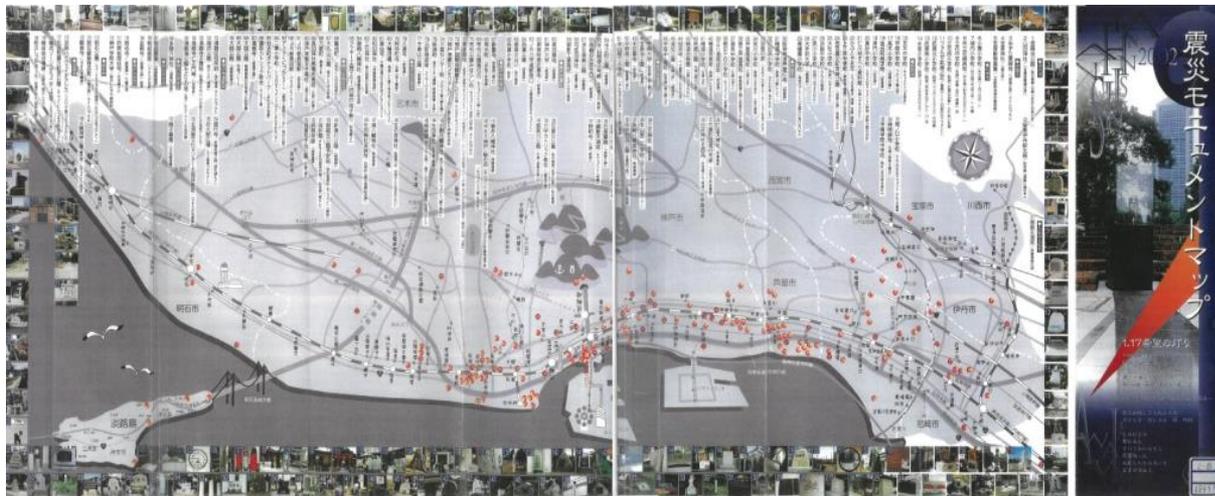
阪神・淡路大震災

- 発生日時：1995年1月17日 5時46分
- 最大震度：7
- マグニチュード：7.3
- 震源地：淡路島北部
- 死者：6,432人（うち関連死912人）
- 行方不明者：3人
- 負傷者：43,792人
- 住宅被害：（全壊）約105,000棟
（半壊）約144,000棟

神戸市内の震災モニュメント

阪神・淡路大震災被災地には、震災遺構や震災後に建てられた慰霊碑等が数多く残っており、点在するそれらの地点をまとめたマップが発行されている。

【震災モニュメントマップ】



神戸市内の震災モニュメント

神戸港震災メモリアルパーク

- 被災したメリケン波止場の岸壁の一部(60m)を「存置」の状態に保存、神戸港の被災と復興に関する屋外展示スペース(パネル、映像等)を整備した公園
- 震災関連の行事等の実施なし
- 周辺にポートタワーやショッピングセンター



阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター

- 2002年に兵庫県が設置、公益財団法人ひょうご震災記念21世紀研究機構が運営
- 阪神・淡路大震災の経験と教訓に基づき、災害文化の形成、地域防災力の向上、防災政策の開発支援を図り、安全・安心な市民協働・減災社会の実現へ貢献する目的
- 西館・東館の2棟からなり、延べ床面積18,754.77平方メートル、総事業費121億円
- 2015年度来館者数は約50.8万人（うち有料ゾーンが約26.9万人）
（※参考）神戸市の人口は約153.7万人



阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター

【語り部講話】

谷川三郎氏（語り部、元芦屋市行政職員）

- 震災発生直後の対応～避難所、応急仮設設置の経験
- 行政職員の立場から
- 自身の行動を振り返り、
教訓を提示
- これまで語り部として1,000回
以上の講話を実施



阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター

【展示見学】

- 映像視聴
(シアタールーム、多面スクリーン)
- 展示見学
※展示の裏側に資料箱の収納



阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター

【資料室、収蔵庫見学】

深井美貴氏

- 兵庫県の委託を受けて1995年10月以降集中的に収集・保存された震災関連資料・記録（一次資料）を(財)21世紀ひょうご創造協会が引継ぎ、管理・公開

※2000年6月から約2年間の兵庫県が延べ450人の調査員を緊急雇用し収集した資料も引継ぐ

- 書籍、VHS等（二次資料）も
- 2016年3月末時点で、一次資料約188,500点（うちモノ資料約1,500点）を収集

